

# 平成 24 年度 関東大学春季 C・Dブロック対抗戦

## ◆ Cブロック◆

### 日本体育大学がBブロックに復帰

## ◆ Dブロック◆

### 東京国際大学は一気にCブロックへ



Cブロックで優勝した日本体育大学

C・Dブロック対抗戦は5月17日(木)～18日(金)の2日間、静岡県富士カントリークラブで行われた。富士カントリークラブでの学生競技は初めての開催だった。霊峰富士を眺めながら、2日間とも天気恵まれ、素晴らしい環境でプレーできたようだ。

Cブロック戦第1日における日本体育大は、この日、前半のハーフを32で回ってきた柘植野徹君(日本体育②)の活躍が原動力となり、Aブロックの経験も豊富な一面をみせながらチームトータル389ストロークでトップに立った。しかし2日目は2位の東北学院大学が猛烈な追い上げを見せた。

最優秀選手に輝いた法井瑠爽君(東北学院③)が69で回るなど、日本体育大学に追いつきそうな勢いをみせて首位争いを面白くした。しかし、地力のある日本体育大は、2年生勢が踏ん張り、終わってみれば4打差をつけ優勝の栄誉を手にして、Bブロックへの復帰を果たした。

今大会は、対抗戦というプレッシャーのかかる大舞台にも関わらず、1年生の活躍が目についた。

中でも慶應義塾大学1年生の西山大策君は2日間トータル152ストロークで回り、若武者ぶりを存分に発揮した。7位の明治学院大学と8位東京大学は残念ながらDブロック降格となってしまったが、次回はCブロック復帰に闘志を燃やしてくれるだろう。最優秀選手は佐藤諒君(東北学院②)と法井瑠爽君(東北学院③)の両君。2日間トータル148ストロークという素晴らしいスコアであった。

Dブロックは前回大会でEブロックから昇格し

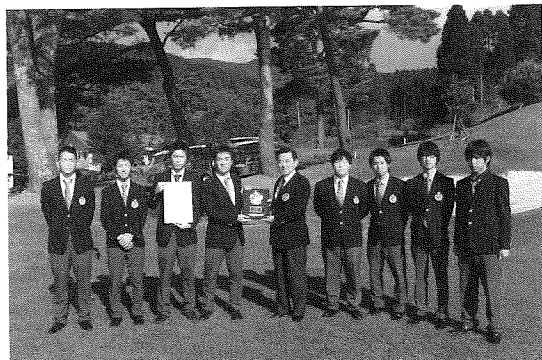
てきた東京国際大学が圧倒的な力を見せつけて、このブロックの話題を独占した。2日間のトータルは786ストロークはCブロックの優勝校より5打も少ないスコアで、2位以下を寄せ付けずに圧勝した。平成22年に連盟に加盟して以来、僅か2年でCブロックに昇格し、今後どこまで上昇気流に乗れるかが楽しみだ。最優秀選手は國村政輝君(山梨学院④)。2日間トータル148ストローク。國村君の活躍で山梨学院大学は2位に食い込み、Cブロック行きのチケットを手にした。7位成城大学と8位玉川大学は残念ながらEブロック降格の苦杯をなめることになった。

CブロックもDブロックも年々レベルが上がっているのと同時に、1、2年生の若い力健闘が顕著だった。経験を積みながら、さらなる健闘を期待しよう。

今回の富士カントリークラブの大会には、出場各校から多くの応援団が駆けつけた。献身的に選手たちのサポートをしていたのが目立った。母校の栄誉を担い、プレーする選手たちにとって大きな励みになり、力になったことであろう。

今大会はプレーの進行を早めるため全ての組にタイムパーを配り選手たちにplay fastを心掛けてもらった。しかしCブロックの進行は1日目から大幅に遅れる事態が起きた。そのため対策として2日目は18ホールスルーのプレーに変更した。だがCブロックではやはり時間が規定のタイムパーよりも遅れが出た。重要な試合なので時間がかかってしまう事情は理解できる。次回は進行に関し、より効果的な対策を立てなければならぬ。

(渥美 諒・慶應義塾大学)



Dブロックで優勝した東京国際大学

# 平成24年度 関東大学春季Cブロック対抗戦

- 主催 関東学生ゴルフ連盟
- 期日 平成24年5月17日(木)～18日(金)
- 使用コース 富士カントリークラブ 6,771yards Par72
- 競技方法 1日18ホール、2日間計36ホール・ストロークプレー  
8人エントリー、6人出場、上位5人のトータルスコアで順位を決定
- 参加校 日本体育大学／東北学院大学／東海大学／慶應義塾大学／城西大学／  
明治学院大学／東京大学／立教大学
- 天候 第1日：晴れ 第2日：晴れ

## 成績

順位	大学名	選手名	第1日			第2日			GRAND TOTAL	
			OUT	IN	TOTAL	OUT	IN	TOTAL	第1日	第2日
優勝	日本体育大学	柘植野 徹②	32	41	73	41	37	78	389	402
		齊藤 達郎③	41	41	82	38	44	82		
		酒井 勇輝③	35	44	79	39	43	82		
		遠藤 晃一②	46	40	※86	42	43	※85		
		嶋田 朱里斗②	34	40	74	42	36	79		
		石井 亜門①	41	40	81	40	41	81		
									791	
準優勝	東北学院大学	大寺 誠④	43	42	85	38	38	76	404	391
		佐藤 諒②	33	39	72					
		知也②	41	44	※85					
		峰岸 正和②	43	42	85					
		法井 瑠爽③	40	39	79					
		熊澤 大地④	42	41	83					
									795	
第3位下	東海大学	山口 拓也④	42	42	84	41	40	81	408	394
		石川松 飛人④	44	39	83	39	38	77		
		小林 良②	42	43	※85	41	37	78		
		榎本 貴之③	40	39	79					
		岩橋 史弥①	37	42	79					
		北谷 勝吾④	40	43	83					
土田 悠輔②	37	42	79							
末吉 隆太郎③										
									802	
第3位下	慶應義塾大学	西山 大策①	39	38	77	38	37	75	408	400
		江口 幸秀③	40	41	81	41	39	80		
		安部 優作④	38	42	80	41	40	81		
		大江 真輝③	42	44	86	44	39	83		
		松林 奏嵩②	41	43	84	45	38	※83		
		本間 啓介④	46	44	※90	41	40	81		
									808	
第5位	城西大学	島田 篤志②	41	40	81	47	41	※88	410	419
		内田 佳吾②	40	45	※85	43	39	82		
		笠原 将揮①	42	41	83	42	42	84		
		大橋 優②	42	39	81	45	43	88		
		大笠原 瑞城③	43	40	83	38	40	78		
		前田 圭④	43	39	82	44	43	87		
									829	
第6位	立教大学	植田 剛将④	43	44	87	43	43	86	436	418
		三崎 勝弘②	42	39	81	41	39	80		
		青木 友翼①	49	47	※96	44	41	85		
		沼沢 慧太①	44	42	86	38	39	77		
		小川 智優④	45	45	90	41	49	90		
		松永 昌広④	47	45	92	49	46	※95		
									854	
第7位	明治学院大学	大木 良介①	55	62	※117	55	58	※113	445	442
		本橋 健生④	44	42	86	43	44	87		
		石原 大地②	46	49	95	47	45	92		
		和田 昂樹②	48	47	95	46	47	93		
		上山 恭平④	43	42	85	43	46	89		
		立松 佑太④	42	42	84	42	39	81		
									887	
第8位	東京大学	並木 亮②	56	53	※109	46	45	91	450	439
		山田 浩一郎②	44	41	85					
		岩本 宙也③	49	44	93					
		三品 匡央②	43	43	86					
		引地 亮太③	54	41	95					
		高崎 将平④	46	45	91					
									889	

以上の結果、日本体育大学のBブロック昇格と明治学院大学と東京大学のDブロック降格が決定。  
最優秀選手：佐藤諒君（東北学院②）、法井瑠爽君（東北学院③）148ストローク

# 平成 24 年度 関東大学春季 D ブロック対抗戦

- 主催 関東学生ゴルフ連盟
- 期 日 平成 24 年 5 月 17 日(木)～ 18 日(金)
- 使用コース 富士カントリークラブ 6,771yards Par72
- 競技方法 1 日 18 ホール、2 日間計 36 ホール・ストロークプレー  
8 人エントリー、6 人出場、上位 5 人のトータルスコアで順位を決定
- 参加校 筑波大学／拓殖大学／成城大学／青山学院大学／山梨学院大学／玉川大学／  
東京国際大学／東日本国際大学
- 天 候 第 1 日：晴れ 第 2 日：晴れ

## 成績

順位	大学名	選手名	第 1 日			第 2 日			GRAND TOTAL	
			OUT	IN	TOTAL	OUT	IN	TOTAL	第 1 日	第 2 日
優勝	東京国際大学	竹田 駿樹②	38	39	77	39	42	81	391	395
		沼田 祐貴②	39	40	79	43	44	※ 87		
		川上 優大①	39	38	77	39	35	74		
		野口 正雄②	40	39	79	38	39	77	786	
		高橋 慶佑③	39	40	79	41	36	77		
		西川 佳介①	41	41	※ 82					
		木村 直登③								
清水 翼③				41	45	86				
準優勝	山梨学院大学	横山 直季①	43	40	83	40	39	79	409	400
		河村 貴博①	46	44	※ 90	41	43	84		
		坂井 稜之介②	41	41	82	38	42	80		
		河合 映志③	46	41	87	42	41	83	809	
		石川 正平④	43	40	83	41	43	※ 84		
		國村 政輝④	38	36	74	36	38	74		
第 3 位	青山学院大学	柳川 直哉①	39	41	80	39	38	77	418	421
		三近 友亮①	43	43	86	42	41	83		
		平澤 健③	43	42	85	44	41	85		
		江上 典王①	52	43	※ 95	47	46	93	839	
		柳田 泰知③	40	37	77	43	40	83		
		高橋 拓耶①	46	44	90	42	52	※ 94		
		馬渡 昌哉②								
松尾 翔①										
第 4 位下	拓殖大学	菊池 弘平③	43	40	83	44	43	87	429	412
		赤羽 佑樹②	47	48	※ 95	41	41	82		
		後藤 哲志②	46	46	92			0		
		田中 秀平②	39	46	85	40	44	84	841	
		伊藤 大稀④	38	44	82	40	43	83		
		齋藤 謙④	45	42	87	37	39	76		
		平野 喜久③								
原澤 一平④				43	48	※ 91				
第 4 位下	東日本国際大学	高野 隆文③	46	45	91	41	43	84	429	421
		砂押 謙吾④	44	43	87	43	44	87		
		今村 智哉③	42	38	80	39	41	80		
		平山 勇気③	48	42	90	43	40	83	850	
		松本 裕樹①	41	40	81	42	45	87		
第 6 位	筑波大学	木和田 真生③	44	39	83	38	35	73	438	436
		青木 祐樹②	44	47	91	44	53	97		
		横山 航④	44	44	88	39	46	85		
		尾崎 大輔②	49	45	94	48	51	※ 99	874	
		野口 孝太②	51	51	※ 102	51	47	98		
		金原 匡隆③	40	42	82	40	43	83		
樋口 暁彦①						0				
第 7 位	成城大学	井口 靖也①	46	46	92	52	45	97	441	441
		門馬 孝直②	42	51	93	48	49	※ 97		
		宮川 圭大③	48	43	91	50	41	91		
		長崎 智海②	48	50	※ 98	47	41	88	882	
		竹内 規晃④	43	35	78	37	40	77		
		横田 秀也④	40	47	87	45	43	88		
		湯川 徹②						0		
吉田 航平②						0				
第 8 位	玉川大学	高橋 和裕②	57	64	121	54	56	110	505	497
		大橋 光貴②	74	74	※ 148			0		
		志村 亮③	61	50	111	51	48	99		
		藤本 一秀②	50	44	94	51	45	96	1002	
		原田 陽平②	48	50	98	54	54	108		
		加藤 裕明①	40	41	81	43	41	84		

以上の結果、東京国際大学、山梨学院大学の C ブロック昇格と成城大学と玉川大学の E ブロック降格が決定。  
最優秀選手：國村政輝君（山梨学院④） 148 ストローク

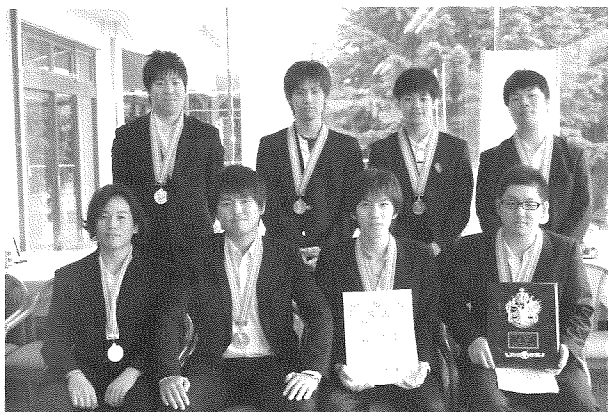
## 平成 24 年度 関東大学春季 E・F ブロック 対抗戦

### ◆ E ブロック ◆

### 帝京大学が D ブロック に復帰

### ◆ F ブロック ◆

### 横浜商科大学はチームワークで E ブロック に昇格



E ブロック で優勝した帝京大学

E・F ブロック 対抗戦は、春の団体戦の先陣を切って 5 月 9 日（水）～ 10 日（金）フレンドシップカントリークラブで行われた。E（7 校参加）、F（5 校参加）ブロック 対抗戦は結果によって 2 校ずつブロック昇降格があるため、上位のブロックよりも入れ替りが激しくハイリスクな戦いが展開された。2 日目は昼過ぎに雷雨により 1 時間程の中断を余儀なくされた。選手達には辛抱強さが求められた。

E ブロック 優勝の帝京大学は「前は失格者が出てしまったことから、D ブロック より降格となったがこれを教訓にして努力した結果、今回は優勝できた。今回の昇格を機に、さらに上を目指したい」と嬉しさを語った。準優勝ながらも昇格を決めた国立校の東北大学は「最優秀選手も獲得した一年生の石川聡一ら、新戦力の加入が大きかった」と喜びを語り、石川君は始めて出場した連盟主催競技での最優秀選手の栄冠を手にして「これに驕ら

ず練習を積んで頑張っていきたい」と高い向上心を語った。

F ブロック 優勝の横浜商科大学は「日頃の団体練習や前日の“鍋パーティー”、試合に出場しない先輩が運転手役を買って出るなどチーム一丸となった勝利だった」と団結を語った。準優勝の東京農業大学は「部員一同で頑張った結果が出て嬉しい」とチームワークの勝利を強調した。最優秀選手の村越和也君（横浜商科②）は「調子は良くなかったがなんとか耐えて頑張ったチームに貢献出来た」と語った。

どのチームもチームワークを話題に出す。個々の選手の実力も大事だが、チームワークが良くないチームは、マイナスな面が多いということだろう。団体戦のポイントはここにある。E・F ブロックのチームワークの良さが学生全体に広がり、学連競技がもっと楽しく熾烈な戦いとなることを望む。

（丸山 将弘・日本大学）



F ブロック で優勝した横浜商科大学